



2021年度 | 第12回



学生チャレンジ企画 実施報告書

2022年度 第13回 学生チャレンジ企画

社会や地域貢献、国際交流、ボランティア、大学の活性化など、学生の取り組みを大学が応援し、サポートする制度です。

応募期間 4.25 (月) ▶ 5.25 (水) 13:00 まで
応募資格 本学に在籍する学生 (学部生、大学院生、別科生) のグループ・個人
応募方法や応募書類のダウンロードはこちらから <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/>

テーマ 『ボーダーレス×SDGs』の視点から以下の3つのテーマより1つを選択し、企画してください。
① 拓殖大学の学生として今、私たちがすべきこと ② 大学活性化のための活動 ③ その他
※ボーダーからは国境、都市と地方など、「地理的境界」を連想しますが、LGBTQ、人種など「社会的境界」も意味します。ボーダーレスな社会(境界のない社会)を構築するため、「SDGsの達成すべき17の目標」から該当する目標を選択し、活動を行ってください。

採択件数 5件程度を予定
活動資金 30万円を上限に支給

〈問い合わせ先〉 広報室(文京キャンパス) TEL.03-3947-7160 E-mail : gakuchalle@ofc.takushoku-u.ac.jp 主催:総合企画部 学生部



頑張る“チカラ”を応援します。



頑張る“チカラ”を
応援します。



【SDGsとは】持続可能な開発目標とは17のグローバル目標と169のターゲットから成る国連の持続可能な開発目標。2015年9月の国連総会で採択された「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」と題する成果文書で示された2030年に向けた具体的な行動指針。



- P3 地域の食品ロスを減らそう!
FWR (Food Waste Reduction)
- P5 新潟県三条市における“食”が持つ
地域おこしの有効性と発展性の研究
SANJO BEATERS×TAKUDAI
- P7 留学生へのオンライン就職支援
留学生就活支援プロジェクトチーム
- P9 コロナに負けるな!
～食と農のパートナーシップ～
大津島プロジェクト「かんじいろ」
- P11 地域の絆で災害を乗り越える
チーム館プロ
- P13 八王子城跡の魅力を高める
デザインプロジェクト
CDS (Community Design Supporters)



2021年度 第12回

学生チャレンジ企画

学生チャレンジ企画は、創立110周年を記念して2010(平成22)年にスタートしました。昨年度(第11回)は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりましたが、今年で12回目を迎えました。

この取り組みは、社会や地域への貢献、国際交流、大学の活性化などにつながる活動を積極的に行っている学生をサポートするものです。

採択された企画には「活動資金」が支給されるほか、実施した成果が特に優れた企画にはさらに「奨励金」も授与されます。

拓殖大学は拓殖人材育成のためのボランティア推進、国際交流、スポーツ振興などさまざまなプロジェクト活動に成果を出しています。

これらは持続可能な開発目標(SDGs)と方向性が合致することから、SDGsを活用して、重要な社会的役割を担う人材育成を目指しています。

スケジュール

募集期間

4.26(月)
5.26(水)



3月中旬

実施報告書の発行

活動の集大成である報告書を作成し今年度のすべての活動を終えました。

12.4(土)

成果報告発表会
優秀企画の表彰



活動の成果を報告し、チャレンジ大賞、チャレンジ賞、奨励賞が決定しました。

6.11(金)

第1次選考結果を
電話で連絡
ポータルで発表

ホームページ
HPオープンと連動して学内に募集
告知ポスターを掲示しました。

6.19(土)

第2次選考(プレゼン
テーション審査)
オンライン開催



1次選考を通過した9グループによるプレゼンテーション審査、初のオンライン開催で行われました。

6.21(月)

選考結果(採択企画)
を学生ポータルで
発表

10月中旬

紅陵祭
展示発表・
ワークショップ

オンラインで開催された紅陵祭期間中、各グループが作成した動画でその成果を発表しました。

講評

第12回 学生チャレンジ企画 を振り返って



学生チャレンジ企画実行委員長(拓殖大学副学長/商学部 教授) 潜道 文子

昨年度の第11回大会は、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、残念ながら実施をあきらめざるを得ませんでした。今年度も昨年度と同様に、パンデミックの終息をみない環境下ではありましたが、感染防止策を十分に行うという条件下のもと、学生たちのチャレンジ企画が実施され、成果報告発表会も開催されました。

拓殖大学は、今年度からスタートした『教育ルネサンス2030』の基本戦略1に持続可能な開発目標(SDGs)を掲げ、SDGsを活用して、重要な社会的役割を担う人材育成を目指しています。そこで、この学生チャレンジ企画においても、今年度の活動はSDGsの17のゴールに向かって行うこととしました。

今年度は、26件の応募がありました。第10回を記念してグループ部門と個人部門を設置した2019年度の40件(前者が38件、後者が2件)には及びませんでした。2017年度以前の応募数を上回り、学生の活動意欲の高さを示す結果といえると思います。

本報告書では、今年度採択された6企画の実施スケジュール、実施内容と成果、活動を終えての感想や反省点、会計報告を掲載しております。活動や成果については、どのチームも素晴らしいものだと感じました。特に、コロナ禍において思うように活動ができない中、学生たちのチャレンジとその結果としての成長は、高く評価できるものです。

その中で、チャレンジ大賞を受賞した「地域の食品ロスを減ら

そう!」は、SNSを活用して自分たちの活動を積極的に発信し、結果として、多くの人たちを活動に巻き込み、協力を得ることにつながっています。関係者と共有する、強くシンプルな想いの大切さを感じました。チャレンジ賞は「八王子城跡の魅力を高めるデザインプロジェクト」が受賞しましたが、デザインという、自分たちの日頃の学びを活かしつつ、かつ独自性のある活動でした。特に、メンバーの学生たちの楽しそうな様子が印象的でした。奨励賞を受賞した「地域の絆で災害を乗り越える」は、2019年に活動をスタートした地域の団地に住む方々からの「災害時が不安」という声を受けて始められた活動であり、人々の実際の生活における社会的課題の解決に寄与する貴重な活動でした。

その一方で、反省点もいくつか出されました。特に、活動資金の使い方については、明確なルールの設定とその理解の推進を図る必要があります。来年度は、説明会などを活用して資金の使用方法を説明すると共に、応募書類における工夫もしたいと考えています。

最後に、皆様のご協力のもと、今年度も学生チャレンジ企画を成功裏に終了することができました。これも学生たちの企画を積極的に受け入れて下さった行政機関、企業、各種団体の皆様のお蔭と深く感謝しております。また、親身に学生たちをご指導頂いた教職員の皆様にも、この場を借りまして厚くお礼申し上げます。



地域の食品ロスを減らそう!

団体名 FWR (Food Waste Reduction)

代表者 商学部 国際ビジネス学科 3年 鈴木 翔太
参加メンバー人数 5名

実施スケジュール

- 4月5日 活動スタート
- 5月20日 Instagram・twitter・note開設
- 5月23日 ポスター原案完成
- 6月11日 防災食品アレンジレシピをSNSで公開
- 6月12日 ミョウガデザイン様協力のもとポスターとFWRロゴの完成
- 7月1日 店舗へのアポイントメントを取り、事前に質問を考え質問紙のフォーマット作成
- 8月10日 関口フランスパン・レストランコクリコの2店舗取材
- 8月12日 魚滝取材
- 8月28日 Rural Coffee取材
- 8月30日 MASUMI取材
- 9月2日 KNETEN取材。その後ミョウガデザインさんと打ち合わせ
- 9月10日 東京新聞の取材を受ける
- 9月15日 ミョウガデザインさんと冊子作成のため打ち合わせ
- 9月27日 ミョウガデザインさんと冊子作成のため打ち合わせ
- 10月2日 ミョウガデザインさんと冊子作成のため打ち合わせ
- 10月12日 Ethical Eats(フリーペーパー)の完成
- 10月13日 Ethical Eats(フリーペーパー)の配布開始



KNETENで実際に取材をする様子



東京新聞に掲載された記事

● 実施内容・成果

【活動について】

1. インスタグラムやTwitter、noteで大学近辺のフードロス削減に取り組む飲食店のPRやフードロス情報の発信
2. 紹介した飲食店に行く拓殖大学の学生や文京区の方の増加を目指す
3. 飲食店の利益増大への貢献
4. 1~3までの流れを通じたフードロスの促進・意識付け

この活動を通してエシカル消費の促進を行っていくという形で活動を行いました。エシカル消費とは消費者それぞれが各自にとっての社会的課題の解決を考慮したり、そうした課題に取り組む事業者を応援したり、エシカル消費というのは、通常、環境保全に配慮した商品を購入する、労働環境に十分配慮した労働を実践している企業の商品を買うなどを示すことが多いと思います。しかしFWRは飲食店がフードロス削減を行っていることを社会的問題への取り組みととらえ、それを私たちが発信し、その取り組みを応援したいと思う人が少しでもいればその人たちが行っている消費活動はエシカル消費ととらえることができると考え、その促進を行うことを通じてフードロスを減らすという目標を活動しました。



ミョウガデザインさんとデザインについて打ち合わせをする様子



冊子作製の際に使う店内の写真撮影をする様子



協力していただいた店舗の方にポスターをお渡しする様子

【ポスター制作・冊子制作】

ポスターはFWRの活動を文京区の方や拓殖大学の学生に知ってもらうために制作しました。最初のポスター原案をTwitterに投稿したところ、ミョウガデザインさんがTwitterを通してアドバイスをくださり、リデザインして完成したのが今回のポスターになります。発信を見ってもらうためにSNSにつながるQRコードをつけるなどして工夫してポスター制作を行いました。

その後FWRの活動成果としてEthical Eatsという冊子を作成しました。これもミョウガデザインさんと何度も打ち合わせを行い表紙のデザインやレイアウトなどについて細かいところまで追求して何度もチェックしながら冊子制作を行いました。

【各種SNSの活用】

以下のようなSNSを活用して広報活動を行いました。

◎Twitter: コンテンツの拡散・発信を行いました。他SNSへの導線となる役割を果たすことを目指しました。

◎Instagram: 見た人たちに画像で楽しんでもらうことを目的として、活用しました。つまり写真による視覚情報での発信を行いました。

◎note: 記事化の際に活用しました。文字媒体としてコンテンツの発信を目的としました。

それぞれのSNS役割を理解し、特徴を活かして、より多くの人に見てもらうための工夫を行い多くの人がこの活動を知るための入口を作ることができたと思います。

従来の店舗紹介ではSNS映えや人気メニュー紹介のみであり、飲食店側のサステナビリティに関する思いや考えは発信されていないと考えました。そこで、FWRの店舗紹介は各店舗のフードロス削減への取り組みを紹介し店舗の歴史や背景も知ることができるようにすることで従来の店舗紹介とは差別化を行い、そこからエシカル消費の促進を行おうと考え、SNSを活用して発信を行いました。

【東京新聞での掲載】

FWRの活動に興味を持っていただき取材をくださった東京新聞の長竹祐子さんには本当に感謝しています。この新聞に掲載されたことで文京区の方の目に留まる機会が増え、文京区長などからも活動の認知していただけました。

【活動を通しての気づき】

1つ目にこの活動は多くの人の協力なくしてはできなかったということです。行動しても協力してくださる店舗や関係者の方々の助けがなければここまですることはできませんでした。協力してくださった皆様には本当に感謝をしています。

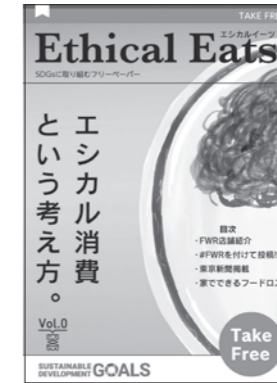
2つ目にSNSの発信は常に続けることで活動に理解や共感を示してくださる方々は必ずいるということです。ポスターや冊子作成の際に助けてくださったデザイナーさんや活動に興味を示して協力してくださった店舗の方の協力がとてもありがたかったのですが、これはSNSでの発信をやめなかったことがこのようなご協力の享受につながったのだと思います。

3つ目に学割などのサービスを提案してくれる飲食店もあり、お店の方の優しさに触れることで活動のやりがいを感じる事ができました。お店の方の思いを感じることができたのがとてもやりがいにつながりぜひPRをしたいというモチベーションが保てました。

最後に飲食店それぞれのフードロス削減に取り組む形があるのを知ることができたのが私たちの中で大きな学びになりました。SDGsを学ぶなかで実際に行っている取り組みを知ることとはとても大切なことだと知るきっかけになりました。これからはさらにSDGsに関心をもって学んでいきたいと思っています。



制作したFWRのポスター



作成した冊子(Ethical Eats)の表紙



実際に学内で冊子を配布している様子

● 活動を終えて

【はじめに】

壁にぶつかることも多くとても大変な企画でしたが、多くの方が協力してくださり、冊子作成という形で活動が無事完了できました。改めて今回の企画に協力してくださった方々にこの場をお借りして、お礼申し上げます。どうもありがとうございました。

【活動を通して】

コロナ禍での活動ということもあり様々な場面で壁にぶつかりました。区役所と協力して行う予定だった活動を、区役所の方針変更により、急遽、計画を変更して自分たちで考えるところから始まり、学食と行うはずの予定も緊急事態宣言で中止になりました。さらに店舗取材のアポをとるときには取材OKだった店舗が直前に取材NGになってしまい、紹介店舗が大幅に減るなどさまざまな困難にぶつかりました。しかしこういった困難があったお

かげで学生チャレンジの目的である問題解決力、コミュニケーション力、交渉力、予算管理能力の向上というなどを向上させることができたと考えています。特に交渉力はかなり成長したと感じています。将来自分が社会に出たときにこの学生チャレンジで伸ばした力を実感することがあれば、私はこの活動における成長は本物だと感じることができると思います。これは社会人の方と協力する中で得られた大きな財産だと考えています。

【おわりに】

一旦ここで学生チャレンジ企画におけるFWRの活動は終了しますが、ここからSDGsについてより詳しく学びFWRの発信が意義のあるものだったと思うことができるようにしたいと考えています。協力してくださった皆様本当にありがとうございました。

● 会計報告

活動資金 30,000円		支出総額 30,000円	
内訳			
		項目	小計
印刷製本費	ポスター印刷のための費用		3,520円
印刷製本費	フリーペーパー200部の印刷費		15,460円
雑費	Rural Coffee における食品撮影のための費用(コーヒー、ホットサンド)		1,050円
雑費	魚滝における食品撮影のための費用(定食メニュー)		740円
委託費	ミョウガデザインさんへのフリーペーパーデザイン制作委託費		9,230円
合計			30,000円

▶ ホームページ掲載

- 実施企画書 <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/2021/kikakusho.html>
- 学チャレレポート <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/2021/repo4.html>

新潟県三条市における“食”が持つ 地域おこしの有効性と発展性の研究

団体名 **SANJO BEATERS×TAKUDAI**

代表者 商学部 国際ビジネス学科 3年 多田 涼太郎

参加メンバー人数 3名

実施スケジュール

- 7月2日 石塚さん(食堂)との打ち合わせ
- 8月6日 現地調査in三条
- 8月7日 熊倉さん(農家)との打ち合わせin三条
- 8月16日 石塚さん(食堂)との打ち合わせ
- 9月24日 熊倉さん(農家)との打ち合わせ
- 9月28日 石塚さん(食堂)との打ち合わせ
- 10月11日 試食会開催
- 10月12日 本学HPに広告を掲載
- 10月13日 慶應大学SFCがチラシ・アンケートを作成
- 10月18日 三条限定販売スタート
- 10月22日 販売終了
- 10月25日 アンケート集計



石塚さん(学食)との打ち合わせ



石塚さん(学食)との打ち合わせ



下田ひこぜん定食



下田産秋野菜を使った天井



熊倉さん(農家)手作りの昼食



た野菜やのっぺ汁の材料にひこぜん・漬物類、石塚さんからはサンマを提供していただいた。ひこぜんは、五平餅に似た冬の郷土料理で、地元産のコシヒカリをつぶして形を整え、木の串に刺して味噌をつけ炭火で焼いたものである。当初は10/18から10/22の5日間の予定だったが、納品の段階で連携不足が生じてしまい、1日延期し10/19から10/22の販売となった。値段は¥450で、前半2日間は天井、後半2日間はひこぜん定食を提供した。1日20食×5日間限定であったが、販売期間が4日間に短くなったこともあり、各日25食ほどに変更した。

販売は成功し、合計約100食無事に売り切ることができた。学生はもちろん教職員にも人気があり、12時ごろには売り切れてしまう日が続いた。アンケートも消費者に回答して頂いた。三条市を知らない人、野菜を購入する際に生産者を意識する人が多くないというデータが得られた。我々都市生活者にとって、農業の現場は遠い存在であるが、だからこそ私たちは生産者に意識を向ける必要があると感じた。三条市をはじめ、地域に根差した素晴らしい農産物がたくさんある。

本チャレンジは地域課題解決に加え、本学の学生に3×3のプロバスケットボールチームが三条市に存在することを認知してもらうこと、及び三条市の認知度を高めること、そして三条Bの新たな地域貢献の形にこれからも学生が関与していくことを目指したものであったが、意義のある活動だった。三条市が持つ地域課題を“食”と関連づけて販路拡大の解決、改善の方向に導き、そこに学生が中心として関わることができた。生産者・熊倉さんの「三条の豊かな大自然の中でじっくりと育った野菜たちをぜひ楽しんでほしい。」という想いも本学に届けられたと感じる。



日本の棚田100選・北五百川の棚田

● 実施内容・成果

新潟県三条市にある3×3のプロバスケットボールチーム、SANJO BEATERS(以下:三条B)と、学生がプロスポーツチームと社会貢献の方法を企画することで、三条市及び三条Bの活性化、認知度向上に寄与することを目指している。少子高齢化による人口減少や、それに伴う地域経済停滞への問題意識から、三条市が持つ地域課題解決の方策を模索し、学生ならではの視点で活動した。農産物の流通範囲が狭いことは三条市が持つ課題であり、販路を拡大させていく必要がある。

本チャレンジでは、学食の協力を得て、三条Bと学生がコラボした三条産の農産物を使用したメニューを販売する。三条Bは「半農半バスケット」のコンセプトのもと、すでに“食”を通じた地域貢献を実践しており、それを踏まえて、三条Bと大学を“食”で繋ぐことにチャレンジした。学食という人が多く集まるプラットフォームの協力のもと、三条Bと学生のコラボメニューを販売することで、首都圏に住む私たち学生だからこそできる、多くの人に三条Bや三条産の野菜を知ってもらい形で、三条Bの魅力を“食”に関連付けて直接発信していきたいという想いで本チャレンジは始まった。このチャレンジの最終目標は、本学の学生に3×3のプロバスケットボールチームが三条市に存在することを認知してもらうこと、及び三条市の認知度を高めること、そして三条Bの新たな地域貢献の形にこれからも学生が関与していくことにある。

年度当初から私たちは週1回のオンラインミーティング、オンラインe-sportsイベントの開催、現地調査を3回行い準備を進めてきた。これらの活動は、三条Bの選手小野寺彰

氏に協力していただいた。小野寺氏は三条市の地域おこし協力隊でもあり、三条Bの活動を通じた地域活性化に取り組んでいる。また私たちのチャレンジに慶應義塾大学SFCの学生も5人参加しており、チラシやアンケートの作成などを担当した。学チャレ採択前に行われたオンラインe-sportsイベントでは、景品で三条産の農産物を発送することで三条市と“食”でつながる活動を行い、本チャレンジの地盤を作った。

実施に向け7月上旬から、三条市下田地区で農家を営む熊倉さん、食堂の石塚さんと打ち合わせを重ねてきた。熊倉さんとは主に秋野菜の選定や納品方法、メニューの考案について話し合った。非常に協力的な姿勢で取り組んでいただいたおかげで下田地区での家庭的な料理に近づけることができた。そして食堂の石塚さんとは、販売日程や提供数の調整について7月から打ち合わせを重ねてきた。こういった形で学生の活動に協力をすることは初めてということで、多角的に意見を交わすことができた。

「三条定食」はメニューを2種類用意した。一つ目は、「三条秋野菜を使った天井」だ。熊倉さんかられんこんやカボチャ・さつまいも・しいたけ・ナスと、のっぺ汁の材料、ずいきの酢の物を提供していただき、彩を添える海老は、食堂の石塚さんに用意していただいた。のっぺ汁は新潟県をはじめ全国各地に伝わる郷土料理で、今回は具材を中心とした煮込み料理となっており、とろみがあって薄味に仕上がっているのが特徴である。

二つ目の「下田地区ひこぜん定食」は、前述し

● 活動を終えて

今回のチャレンジで、私たちの中ではまず“全日売れさせる”という目標を立てた。チャレンジを進めていく中で、三条定食が多くの学生や教職員の方に渡ること、そしてアンケートに答えてもらう事が必要であった。チャレンジを終えて振り返ると、三条定食は4日間全日売れ、召し上がって頂いた方から「美味しかった」、「三条に行ってみよう」などの言葉を頂けた。目標を達成することができ、学食という多くの人が集まるプラットフォームの力を借りて、三条市の魅力や三条産の農産物を知ってもらうこと、そして三条Bの魅力を食に関連づけて発信していくというチャレンジは成功した。

しかし、販売までのプロセスで、多くの反省点が出た。緊急事態宣言下で三条市へ実際に直前訪問することは叶わなかった。東京にいる私たちができる地域貢献という形で始めた今回のチャレンジでは、生産者である農家の熊倉さんと学食、私たちの考えをまとめて、必要な情報をそれぞれに伝える必要がある。三条定食に使う食材の納品時間を打ち合わせする際に、その日の交通状況や学食の営業時間、発送できる時間帯を、農家の熊倉さんと学食の石塚さん双方に正確に伝える必要があったが、連携が上手く行かず、販売を当初の予定から1日延期することになった。

原因は私たちの認識不足と詰めが甘さで、多くの方々を力に借りている分、それぞれの方に伝えるべき情報をしっかりと伝えてられていない部分があった。打

ち合わせを重ねる中で、疑問点がない状態で本番を迎えるべきだった。しかし、このような経験は企画採択された私たちだからこそできたものであったし、悲観的にならずに気持ちを切り替えて、売ることが出来て良かった。社会に出てからこのようなトライ&エラーは連続して起こることで、学生のうちに経験できたことは本チャレンジの収穫の一つといえる。

本チャレンジは地域課題解決に加え、本学の学生に3×3のプロバスケットボールチームが三条市に存在することを認知してもらうこと、及び三条市の認知度を高めること、そして三条Bの新たな地域貢献の形にこれからも学生が関与していくことを目指したものである。成功した部分は次に向けてブラッシュアップしていき、反省・改善点を活かして今後も三条市のために活動していきたいと考えている。



チャレンジメンバーの集合写真

● 会計報告

活動資金 100,000円		支出総額 70,600円
内訳		
項目		小計
旅費交通費	東京-燕三条間往復(1人分)	17,820円
雑費	野菜購入・発送料金	49,780円
雑費	チラシ・アンケート用紙印刷(50円×44枚)	2,200円
雑費	ポスター印刷(80円×10枚)	800円
合計		70,600円
その他活動から得た収入		
項目		小計
学食販売売上		44,100円
合計		44,100円

▶ ホームページ掲載

○実施企画書 <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/2021/kikakusho.html>

○学チャレレポート <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/2021/repo6.html>

留学生へのオンライン就職支援

団体名 **留学生就活支援プロジェクトチーム**

代表者 商学部 国際ビジネス学科 3年 宮崎 智恵

参加メンバー人数 12名

実施スケジュール

- 5月3日 企画の立ち上げ
- 5月19日 留学生担当教員に協力を依頼し就職活動の悩みに関するアンケートを配布
- 5月22日 zoomメンバー会議(具体的な企画案として動画の作成・大まかな内容を決定)
- 5月25日 アンケート締め切り、結果を分析し就職課とのミーティング(内容の修正)
- 5月26日 zoomメンバー会議(就職課で話した内容を元に企画内容の修正、就職課配布のHandbookを動画で解説する事に)
- 6月16日 zoomメンバー会議(動画内容と具体的な今後の活動について)
- 6月19日 zoomメンバー会議(企画内容の決定)
- 7月5日 zoomメンバー会議(全体のスケジュールを決定)
- 7月29日 撮影用iPad購入
- 8月2日 大学にて対面でのミーティング(流れ・内容の共有、スケジュールの組み直し、撮影に向けて役割分担)
- 8月14日 動画の構成の締め切り(内容を確認・修正を行い台本担当へ)
- 8月23日 動画用台本締め切り(内容を確認・修正)
- 8月24日 就職課の方に台本の確認をしてもらおう【対面】
- 8月30日 台本の内容の修正終了(出演者へ)
- 9月7日 zoomを用いて動画撮影(1本目、4本目)
- 9月8日 zoomを用いて動画撮影(4本目残り、2本目、3本目)
- 9月21日 座談会について就職課とミーティング【対面】
- 9月26日 動画編集終了(就職課に動画のリンクを送付、座談会の中止を決定→代替案として座談会参加希望者には就職課の活動をメールで紹介)
- 9月30日 就職課の方と中国人留学生会にご協力いただき、動画を配信

● 実施内容・成果

私たち留学生就活支援プロジェクトチームは、日本で就職を考えている留学生をオンラインで支援することを目的に本チャレンジ企画を立案しました。本企画の目的は、就職課が発信している情報を再度共有することで、本学の留学生の就職活動に関する不安を解消する手助けを行うことです。

2019年から流行している新型コロナウイルス感染症の影響により、インバウンド需要は減少、就職活動の方法は多様化し、今まであまり一般的でなかったオンラインでの面接や説明会などが増加しました。また、度重なる緊急事態宣言により大学の講義がオンラインで行われる事になり、周囲と密にコミュニケーションをとり情報交換をするといったことが難しくなっていました。本学はセミナーなど多様な支援を行うことで学生の就職率向上に力を入れており、留学生の就職率も45%と優れた実績を誇っています。しかし、希薄化する周囲との関係、慣れないオンラインでの授業や就職活動、また留学生の主な就職先であったインバウンドビジネスの需要が減少してしまったことなどの要因から日本で就職活動をするのは新型コロナウイルス感染拡大以前よりも厳しいものになってしまったと言えるでしょう。そのような背景から、学生の立場から就職課の活動を支援し、昨今の情勢の変化を反映しつつ留学生が手軽に就職活動の情報を得ることができるような企画を行いました。

本企画を実行するにあたり、留学生の実態を把握するために、本学の留学生に向けたアンケート調査を行いました。155名の方からいただいた回答をもとに留学生が抱える就職活動に関する課題の分析を行なった結果、回答をいただいた155名の留学生のうち69.8%の留学生が日本での就職を考えており、その7割が就職に関する悩みを抱えていることがわかりました。

【アンケート結果からわかった留学生が抱える主な悩み】

- ・就職活動の流れがわからない
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で就職の先行きが不透明
- ・日本語能力に対する不安

この結果を基に留学生が抱えている不安を解消するためにはどうしたらいいのか、本学の就職課を交えた話し合いを複数回行いました。その結果、より正確な情報を留学生に対して、視覚的・聴覚的にわかりやすく伝えるために、就職課が配布している「留学生のための就職活動HANDBOOK」という冊子に対話形式で解説した4本の動画を作成しYouTubeにて限定公開を行うことに決定しました。各メンバーで構成・台本を考え、より伝わりやすいものになるように就職課と面談を重ねブラッシュアップを行っていきました。コロナ禍だけでなく、長く視聴してもらえるような内容になるよう心がけました。初めは動画は全て対面で撮影したものを公開する予定でしたが、緊急事態宣言の発令により、急遽台本を変更し全てオンラインでの撮影に切り替えました。対面での活動は最小限に抑え、昨今の情勢をしっかりと反映することができたと感じています。

動画は先輩が後輩の留学生と日本人学生の就職活動の疑問に対して答えていくという形式で、1本目から4本目まで内容が徐々に詳細なものになるように作成し、全てを見ることで日本での就職活動の流れや気をつけることなどが詳しくわかるような構成にしました。また、いつでも見直すことができるように各セクションごとの秒数を動画の概要欄に示し、わからないところをいつでも確認できるように工夫しました。動画の拡散には、就職課と中国人留学生会に協力をいただき、合計で88回再生されました。

【動画について】

- 動画は全て10~15分ほどで見終わるように編集を行いました。
- 1本目の動画は「日本での就職活動の理解」と題し
- ①日本での就職活動の流れ
 - ②海外と日本の採用

方針の違い

- ③日本企業の留学生の採用基準
- ④留学生が日本での就職活動で苦労したこと
- ⑤就職活動をうまく進めるために、スケジュールを記した画像とともに業界別に日本での就職活動の大まかな概要についての説明を行いました。

2本目の動画は「就職活動を行う前の準備」として

- ①就職活動スケジュールの立て方
- ②自己分析について
- ③業界・企業研究について
- ④日本企業の雇用形態について具体的にどのような事前準備を行う必要があるのかをパワーポイントを用いて説明しました。

3本目は「就職活動の準備と対策」として

- ①就職活動に必要な準備
- ②OB・OG訪問について
- ③プレエントリーの方法
- ④説明会・セミナーについて
- ⑤エントリーシートの書き方
- ⑥筆記試験対策
- ⑦面接対策
- ⑧内定までの流れ
- ⑨卒業後も就職活動を継続するにはについて、2本目の動画をさらに詳しく掘り下げ、具体的な対策についての解説を行いました。

最後の動画は「就職活動に必要なビジネスマナー」として

- ①電話のマナー
- ②メールのマナー
- ③身だしなみのマナー
- ④会話のマナー
- ⑤企業訪問をする際の準備について日本人学生が実際に実演するという形で解説を行いました。概要欄には間違えやすい表現などをまとめて記載し、復習などに役立てることができるようにしました。

本企画は3年生をメインとして活動を行ったのですが、オンライン上でのコミュニケーションの難しさ、動画作成のノウハウ、そして私たち自身も就職活動について学ぶことができました。本企画で作成した動画は新型コロナウイルス感染拡大だけでなく、パンデミックが収束した後も役立てていけるものになると私たちは考えています。

● 活動を終えて

本企画の反省点は大きく3つ挙げられます。それは、「オンラインでのチームビルディング」「スケジュール管理」「作成した動画の拡散方法」です。

まず、1番の課題は「オンラインでのチームビルディング」についてです。私たちはゼミナール所属メンバーを主体として活動を始めました。しかし、度重なる緊急事態宣言などにより、ほとんど初対面のメンバーが集まっての活動となりました。ミーティングなどもほとんどオンラインで行われたため、チームビルディングや互いのことを知る時間をほとんど作ることができませんでした。主体性のある数人だけが発言をし、他の人はそれに対して無反応といったような状況も多く見受けられました。役割分担においても、作業量に大きく偏りがあつたと感じています。そのような状況を打破するため、1度だけ対面でのミーティングを行いました。それにより、今まであまり積極的に参加してこなかったメンバーにも変化が生まれ、少しずつ積極的に活動に参加してくれるようになりました。オンラインのミーティングでは場の雰囲気も掴みづらいため、ブレイクアウトルームを使う以外は各個人間がその場で話し合っただけで結論やアイデアを出すといったことが難しく、全体として個人ワークがメインになってしまいます。そのような中で、オンラインだからこそ各個人が積極的に参加をし、チームを作る努力をしなければいけないと痛感しました。そのためには、個人で話す時間を設けるなど、工夫できた点はたくさんあったと感じています。

次に、「スケジュール管理」についてです。先述したように、私たちの活動において1番の課題はチームビルディングでした。この事により、コミュニケーションがうまくいかず、各自の能力や使える時間などのすり合わせに時間がかかったため、役割分担やミーティングの日付、撮影日程についてスムーズに取り決めを行うことができませんでした。その結果、予定よりも大幅にスケジュールが押し延び、結果として規模を縮小しての活動を行わざるを得ませんでした。また、スケジュールをしっかりと確定できていなかったことから事前準備に欠ける点も多く見受けられました。就職課のミーティング日程

や内容の変更などもショートノーツとなってしまい、大変ご迷惑をおかけしてしまいました。企画の立案時に、事前準備としてさまざまな状況を想定したプランを組みスケジュールについて、いくつか候補日を制定しておくべきだったと反省しています。また、メンバー間で密にコミュニケーションをとり、情報共有を行うべきだったと感じています。

最後に「作成した動画の拡散方法」についてです。動画の拡散には当初予定していたSNSは用いず、就職課と鄭先生にご紹介いただいた中国人留学生会会長に依頼しました。拡散に関して、大きく反省点としてあげられることは、事前アンケートで集めた留学生のメールアドレスをしっかりと活用できなかった事です。依頼をしたことに満足してしまい、自ら能動的にメールアドレスを覚えてくれた留学生に対し声をかけることを怠ったことが、動画の閲覧数を伸ばすことができなかった大きな原因になっていると考えられます。また、動画の配信方法についても、座談会取りやめを早めに決定し、1本目を配信してからアンケートを取りフィードバックを元に内容や配信方法を変更することもできたと反省しています。

本企画を通して、企画を実行する上で必要なのは、企画力だけではなく、チームワーク・事前に多くのことを想定してスケジュールを組むこと・臨機応変に素早い決断と行動をすることで学ぶことができました。そして、人任せにするのではなくそれぞれが主体性を持つこと、そのための工夫をすることが特にオンラインでの活動においては重要であると感じました。また、企画に携わった私たち自身も就職活動についての理解を深めることができ、Zoom会議の設置、動画撮影・編集のノウハウなど多くのことを学ぶことができました。現在リモートワークは多くの会社で取り入れられており、新しい働き方として定着してきています。そのような中で、今回のような完全オンラインでの活動をした経験は大いに役立てていけると感じています。本企画にご協力くださった就職課の皆様、学生チャレンジ企画運営委員の皆様、このような貴重な学びの機会をくださり、誠にありがとうございました。この場を借りてお礼を申し上げます。

● 会計報告

活動資金	150,000円	支出総額	136,780円
内訳			
	項目		小計
用品費	iPad Pro		130,800円
用品費	動画編集用ソフト(字幕レコーダーの購入を取りやめ、こちらに変更)		5,980円
	合計		136,780円

その他活動資金以外にかかった経費【自己負担分】

	項目		小計
雑費	印刷代(就職課に提示する資料として)		1,000円
雑費	ステープラー		500円
	合計		1,500円

▶ ホームページ掲載

- 実施企画書 <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/2021/kikakusho.html>
- 学チャレレポート <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/2021/repo5.html>



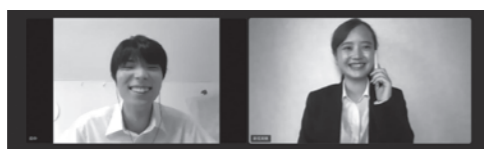
Part1 動画撮影風景



Part3 撮影風景



Part2 撮影風景



Part4 動画撮影風景



Part1「日本での就職活動の理解」動画内容



Part2「就職活動の前に行う準備」動画内容



Part3「就職活動の準備と対策」動画内容



Part4「就職活動に必要なビジネスマナー」動画内容

コロナに負けるな！ ～食と農のパートナーシップ～

初めてのチャレンジ!
今年こそチャレンジ!

実施スケジュール

- 6月19日 大津島の方を含めたzoom週次ミーティング(土曜日開催)
- 7月13日 zoomにて漁師・古城さんとの交渉
- 8月11日 細田さんとコラボ飲食店の交渉
- 9月2日 中西ファームさんへのヒアリング
- 9月3日 zoomにて細田さんとコラボ飲食店の交渉
- 9月9日 和光市の農家(富岡さん)へのヒアリング
- 9月15日 zoomにて、飲食店とコラボメニューの交渉
- 10月2日 すみだ青空市ヤッチャバに出店
- 10月4日 大津島の方を含めたzoomミーティング
- 10月6日 大津島の方を含めたzoomミーティング
- 10月8日 大津島の方を含めたzoomミーティング
- 10月29日 大津島の方を含めたzoomミーティング
飲食店にて、コラボメニュー提供の開始

● 実施内容・成果

今回の学生チャレンジでは、山口県周南市大津島の人々と連携し、「生産者と消費者」「地方と都市」をつなぐ、食と農のパートナーシップの構築を目指して、コロナ禍に応じた新しい活動を行った。私たちは新型コロナウイルス感染症(以下、コロナと呼ぶ)の影響で、大津島に行くことが出来ないなか、島の方と毎週土曜日にオンラインミーティングを開き、現地との情報共有を続けてきた。それにより、都市部でのワークショップ開催・青空市の出店・農家との交渉およびヒアリング・協力飲食店とのコラボメニュー作成など、島の魅力を発信する活動に取り組んだ。

【コロナ禍における農業経営の実態調査ー農業者へのヒアリングからー】

私たちは9月2日に東京都八王子市にある中西ファームの伊藤さんに、9月9日に埼玉県和光市の農家である富岡さんにヒアリングを行った。

どちらの生産者も、コロナによる悪影響はあまりなかったというお話だった。コロナ以前から大手スーパーと契約していた中西ファームは、コロナによって飲食店に野菜を卸すことはできなくなったが、それを補う形でスーパーの需要が増加したという。富岡さんの場合は、商業施設から野菜の追加注文があった。その理由は、自粛によって家庭の消費が増えたためとされる。

コロナ前からの問題だが、どちらの生産者も担い手不足を訴えていた。中西ファームでは生産規模拡大のための人手を必要とし、富岡さんは後継者を必要としている。

このヒアリングでは、実際に現場に赴き、農業の実態に関する生の情報を得たという点で意義があった。

【新たな食と農のパートナーシップの構築】

(1)「すみだ青空市ヤッチャバ」の出店ー大津島の生産者と墨田区の消費者をつなぐー

私たちは10月2日に行われた「すみだ青空市ヤッチャバ」において、「あおぞらアンテナショップかんじいる」(以下、かんじいる)を出店した。「すみだ青空市ヤッチャバ」(以下、

ヤッチャバ)とは、東京都墨田区東向島町の曳舟駅前において、毎週土曜日に開催される青空市であり、日本各地の農作物とその加工品を、生産者が自ら販売し、作り手と食べ手の豊かにつながりが培われている。「あおぞらアンテナショップかんじいる」とは、大津島の日常の食を東京都の家庭でも味わってもらうため、関ゼミナールの学生と大津島の住民が協力して立ち上げた団体である。今年度の学チャレで重点的に取り組んだ活動は、この特産品販売である。具体的には、大津島産のカボスやヒジキを中心として、島の人々が日常的に使っている生活用品を含めた販売に取り組んだ。その際、「かんじいる」の活動を紹介(農家・漁師・提携飲食店の情報など)する自作のパンフレットと、大津島をはじめとした連携する地域のパンフレット(観光・地域情報)の配布も行った。

この活動では、既に構築していたパートナーシップを、コロナ禍でも継続できた点に意義があった。

(2)墨田区の飲食店と連携した魚料理のコラボメニュー作成ーコロナ禍の漁師を支援するー

私たちは、大津島の漁師(古城さん)がコロナ禍によって抱えた問題を聞き取り、その解決のため、墨田区の飲食店である「二階の食堂デリカフェ」と協力し、魚料理のコラボメニュー作成に取り組んだ。

古城さんへのヒアリングは、ZOOMを用いて実施した。ここでは、「飲食店のコロナ禍による営業自粛の影響で、魚の需要が減少し、価格が下がってしまい、また全て市場に卸すと供給過多を起し、更に価格が下がってしまう。さらに燃料価格の高騰も重なり、漁に出られない方や、獲った魚を海に逃がしてしまう」(7月13日)といった、漁業の厳しい現状をお聞きした。そのため、私たちは、「二階の食堂デリカフェ」に協力してもらいながら、古城さんを支援するための魚料理のコラボメニュー作成に着手したのである(9月15日)。「二階の食堂デリカフェ」は、ヤッチャバ 事務局の細田さんに

団体名 大津島プロジェクト「かんじいる」

代表者 政経学部 経済学科 3年 関 海人

参加メンバー人数 18名



生産者の声・コラボ飲食店・アンテナショップをまとめたパンフレット

紹介していただいた。コラボメニューの提供は、10月29日に始まった。メニューは、真鯛の昆布づめ、アジの南蛮漬け、ハマチのソテー南イタリア風である。どれも魚の味を生かす優しい味付けで、とても美味しかった。飲食店からは、「古城さんから直接送っていただいたため、とにかく鮮度が抜群だった。今回は、学生チャレンジ企画のおかげでコラボが実現したが、高品質の魚をこの価格で仕入れられるなら、次回もお願いしたい」と感想をいただいた。

通常、東京で食べる魚は、漁師→地方市場→卸売業者→豊洲市場→仲買人→魚屋→一般消費者というように、多くのプロセスと時間をかけて、一般家庭に届いている。それに対し、本企画では、古城さん(漁師)が獲った市場に卸していない新鮮な魚を、東京の飲食店(二階の食堂デリカフェ)に届けることで、双方にとって利点のある「新たな食と農のパートナーシップ」が構築できるのではないかと考えたのである。その結果、前日に水揚げした魚を、翌日のお昼には東京に到着するスピードで輸送し、鮮度抜群の商品をお届けすることに成功した。「第一次生産者」「飲食店」「消費者」のすべての人々が得をする関係こそ、私達が目指した「食と農のパートナーシップ」である。



やっチャバの販売風景



飲食店とのコラボメニュー

● 活動を終えて

はじめに、今回の「コロナに負けるな!～食と農のパートナーシップの構築」に、ご協力くださった学外関係者の皆さまに対して、改めて感謝の気持ちをお伝えしたい。

私たちが所属する関ゼミナールでは、2017年から大津島の支援を行っている。大津島の合宿では、すだだいの収穫作業や地域活動の援助(道清掃、側溝の清掃作業、ピーチクリーニングなど)に取り組んできた。緊急事態宣言下の活動は、多くの障害が立ち塞がった。今年は、コロナの影響によって大津島を訪問できず、食と農のパートナーシップにおいて最も重要となる「信頼関係の

構築」を、オンラインのコミュニケーションに頼るなど、難しい問題を抱えたが、その代わりに、「東京でもできる継続的な支援」の可能性を探る機会が与えられたことは、貴重な経験であった。また、二度に及ぶ活動スケジュールの見直し、ヒアリングを行う農家の変更、活動の班分けの見直しなどが生じ、社会情勢を見極めつつ、慎重に企画を進めねばならなかった。このような状況で本企画が成り立ったのは、ひとえに大津島や墨田区の沢山の人の協力のおかげだった。本企画を行っていくうえで、「パートナーシップ」の重要性を改めて強く感じるようになった。

● 会計報告

活動資金 250,000円		支出総額 247,819円
内訳		
項目	小計	
交通費	岩国空港～羽田空港飛行機代、学生活動交通費、大津島～徳山間交通費	58,382円
委託費	細田侑(墨田区)、古城昭彦(大津島)	40,000円
謝礼金	古城涼太(大津島)、大友翔太(大津島)	30,000円
印刷製本費	オリジナルチラシ印刷、印刷代	5,327円
賃借料	すみだ生涯センター、ニッポンレンタカー	24,345円
雑費	輸送代、駐車場代、ガソリン代、宿泊費他	36,462円
消耗品費	感染症対策用品購入、文房具、エプロン他	53,303円
合計		247,819円
その他活動資金以外にかかった経費【自己負担分】		
項目	小計	
旅費交通費	自己負担分	819円
合計		819円

▶ ホームページ掲載

- 実施企画書 <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/2021/kikakusho.html>
- 学チャレレポート <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/2021/repo3.html>



中西ファーム・伊藤さん ヒアリング風景



和光市の農家・富岡さん ヒアリング風景

地域の絆で災害を乗り越える

団体名 チーム館プロ

代表者 国際学部 国際学科 3年 岡部 優里奈

参加メンバー人数 16名

実施スケジュール

- 6月21日 パイロット向けに行ったアンケート調査の分析・修正開始
- 7月3日 自治会報に修正版アンケートを折り込み、全世帯へ配布
- 7月14日 アンケート回収
- 7月26日 アンケート調査の集計開始
- 8月4日 自治会と合同ミーティング
- 8月10日 自治会と合同ミーティング
- 8月17日 自治会と合同ミーティング
- 8月23日 自治会と合同ミーティング
- 8月24日 分析結果の報告書作成開始
- 8月31日 自治会と合同ミーティング
- 9月1日 自治会と合同ミーティング
- 9月1日 防災地図作成開始
- 9月4日 報告書を自治会報に掲載していただき、全世帯へ配布
- 9月7日 スマホ相談会の活動開始(週1~2回開催継続中)
- 9月21日 井戸端ノートを団地の緑側に設置
- 9月23日 ガイドラインの作成開始
- 10月3日 間違いがないか確認を行った上で、防災地図の完成
- 10月27日 ガイドライン完成
- 毎週月曜日 自治会と合同定期ミーティング



キャンパスで話し合いをしている様子



Zoomで話し合いをしている様子



スマホ相談会の様子

● 実施内容・成果

私たちは、2019年より「館ヶ丘団地暮らし向上プロジェクト(館プロ)」を開始しました。団地住民の声に耳を傾け、住民に寄り添い、団地の暮らし向上の為に活動する事を目的としています。本学生チャレンジ企画の活動は、館プロの一環として行っており、住民の「災害時が不安」という声を受けて始めたものです。住民同士で支え合う仕組みが十分に備わっていない事が大きな課題となっている事から「地域の絆で災害を乗り越える」というテーマで、災害時に助け合えるコミュニティづくりを進める事にしました。

活動を進めるにあたり週に1~2回程度、自治会の方とzoomを通し、合同ミーティングを開催してきました。様々な案について議論を重ねながら、活動を行う中で達成された成果は大きく分けて4つあります。

第1に、アンケート調査の結果に基づき防災地図を作成した事です。アンケート調査では、住民の方々の災害対策状況、災害時に支援が必要な方・可能な方等について調査をしました。そこで、全世帯へ質問票を配布する前に、一部の住民を対象に実験的なアンケートを行いました。住民から改善点を教えて頂いた上で、自治会と内容を修繕し2400全世帯へ配布しました。その結果、125世帯の方が協力していただき、住民が不安に感じている事や防災意識等について詳しく知る事ができました。また、「支援する事が可能な方」を中心に支援隊を結成する為に、必要な情報も得る事ができました。その後、住民の方に今回の調査結果を知って頂く為アンケート結果を報告書にまとめ、全世帯へ配布しました。

その上で、調査結果の「身体状況」や「災害時に支援が必要か」の部分をもとに防災地図の作成を行いました。防災地図では、避難困難レベルを設定し色分けを行いました。

- ・色分けと防災地図記載内容について
- 名前
- 電話番号
- 赤色→支援が必要
- 黄色→状況に応じて支援が必要
- 青色→支援ができる人
- ノ→空き家
- 空欄→アンケート未回答者
- 以上の項目を部屋番号ごとにまとめる



災害時に安全な場合に出していただく旗



災害時に支援が必要な場合に出していただく旗



防災地図の見本



井戸端ノート設置の様子

災害時に支援が可能な方が支援を必要とする方に迅速に対応ができるように、Excelファイルにまとめました。その為、住民の身体機能の変化や入転居状況などに応じて情報を簡単に修正できます。また、データだけではなく、紙媒体としても保存しています。防災地図は、個人情報保護の観点から住民には配布せず、自治会管理のもと災害時に支援時に安否確認の為に使用します。

第2の成果は、災害時に安否を確認する為の「旗」の作成と災害時に活用できるガイドラインの作成です。これらは災害時に、支援が必要な方と支援ができる方を繋げる為の仕組み作りを目指しているものです。

私たちは、当初避難困難レベルを色分けしたステッカーを住民の方々に配布しポストに貼り付けて頂き、その上で避難レベルが高い方の安否確認を行う事を検討していました。しかし、自治会と議論を重ねる中で、防災地図と役割が似ている点や、防犯上の問題を考慮し、計画を変更する事にしました。その結果、ステッカーの代替案として、旗を作成する事にしました。災害時にベランダから赤色と黄色の旗どちらかを出していただき、結成を目指している支援隊が旗を見て安否確認が行えるような仕組みづくりを目指しています。

- ・旗の色について
- 赤色→支援が必要な場合
- 黄色→安全だった場合



住民の方に向けて配布した「災害に備えるアンケート」

また、防災地図と旗を有効活用して頂く為に、3種類のガイドラインの作成を行いました。1種類目は、災害時発生時の対応や緊急連絡先、情報伝達、旗の使い方を掲載した一般住民向けのものです。部屋の中に貼って頂くようA4用紙にまとめました。2種類目は、1種類目のガイドラインの内容を細分化し、詳しく掲載した冊子型のものです。3種類目は、支援隊向けのものです。これらが災害時に自分の身を守るとともに、支援できる方の適切な支援に繋がる事を期待しています。

なお、防災対策の活動だけではなく、住民同士、そして学生同士のコミュニケーションを活性化させる為の活動も行ってきました。

1つ目は腕章の作成です。団地での活動の際に、私たち学生が活動している姿を住民の方々に知って頂く為です。その際に、チーム全員からデザイン案を出し合い、ロゴマークも決定しました。これを機に、学生と住民の方々の交流が増え、より住民の方々の距離が縮まりチームの団結力がさらに高まりました。

2つ目は、井戸端ノートです。以前行った社会調査で「日頃近所の方とコミュニケーションをとっているほど、暮らしの満足度が高い」という事がわかりました。この結果とコロナ渦という事を考慮し、住民同士で間接的なコミュニケーションをとって頂く事、新たな住民同士の繋がりが生まれる事を目的に、誰でも自由に書き込める井戸端ノートを団地の交流スペースに設置しました。

3つ目は、スマホ相談会の実施です。春に団地で行ったコロナウイルスのワクチン予約のお手伝いをした際に、スマホの操作が不慣れな住民が多くいる事を知りました。その中で、「スマホの使い方を教えてほしい。」というニーズのもとスマホ相談会を開く事にしました。週に1度、2人体制で学生が団地に出向き、住民の方々のスマホに関する悩みを解決する場を設けています。「自分たちではわからない事が多いからこのような機会があるの助かる。」といった感謝の言葉を多く頂きました。

このような活動が私たちと住民の方々の距離を縮めるだけでなく、自治会と住民の方々、住民の方々の間の距離をさらに縮める事に貢献できればと考えています。



チームの集合写真

● 活動を終えて

本企画に取り組んできたこの半年間は、一人一人の成長に繋がった期間でした。それは、PDCAサイクルを基にプロジェクトを進める中で失敗と成功を繰り返し、そこに楽しさも感じる事ができたからだと考えます。この企画を始めて少し経った頃、最初の壁に直面しました。「団地住民の暮らし向上の為に地域の絆で災害を乗り越える」という最終目標は同じであるものの共に活動を進める自治会と学生の間で意見が食い違ってしまおうという事態が度々続いたのです。学生だけで行うミーティングと自治会と合同の会議の2種類が存在し、前者のミーティングが問題の原因であると考えました。そこで、全てのミーティングに自治会にも参加して頂いたそれぞれの意見についてタイムリーに議論できるように、活動の質、効率の両方において向上しました。

夏休みに入ると、新たな問題が発生しました。ミーティングに参加するメンバーが固定化されたり、参加したくても予定が合わずに参加できないメンバーが出てきてしまったりしたのです。毎回議事録は書いていたものの、参加頻度の違いから、活動の進行状況に対する把握量に差が出てきてしまいました。それだけでなく状況がわからなくなればなるほど、活動に関わる事が面白くなるという事態も生じます。そこで、もう一度全員で同じ方向を向く為に、防災に関するアンケートで得た情報を防災地図に落とし込む作業を全員で行いました。ミーティング時間外で行える為、会議に参加出来なかった人も一緒に取り組む事が出来ました。また、活動を進める中で仕事を分担する事の重要性にも気づいていきました。初めは一部のメンバーで進めてしまった作業がいくつかありましたが、この課題を解決すべくリーダー、副リーダー、予算係、記録係という枠組みに加え、防災に関するアンケートの結果報告資料担当、防災地図のデータクリーニング担当、ガイドラインの集約担当等を設ける事にし、一人一人が

当事者意識を持ち一つの目標に向かって取り組む事ができる環境になりました。メンバー間の信頼関係も構築され、住民の方々に寄り添った活動にしていける為にはチームの関係が良好な必要がある事を学びました。緊急事態宣言が出ていた事もあり、活動は主にオンラインで進めてきました。こうした中、オンラインで活動する事の可能性にも改めて気づきました。WordやExcelといったパソコンツールはもちろんJamboardというオンライン上で問題分析が出来るツール等を有効活用しながら活動したからだと思います。オンラインでも方法を工夫すれば、円滑に活動を進められる事を学びました。一方で住民と直接お会いできないという点に関しては弊害がありました。しかし緊急事態宣言解除後すぐにスマホ教室を通じ住民との関係を近づける事が出来ました。住民のニーズに応えての活動である為、感謝して頂ける機会が多くなり、やりがいにもなりました。

この数か月間私たちが迎えてきた道は決して平坦なものではありませんでした。この活動が館ヶ丘団地住民の明るいより豊かな未来にそして私たちの成長に繋がっていると感じています。また、学生だけでは乗り越えられない事も自治会の方と共に活動した事で乗り越える事ができた為自治会の皆様への感謝の気持ちも更に強くなりました。本音で語り合った事で家族のような存在になる事が出来たとも言えます。地域で連携すれば、それが大きな力となり高齢化といった大きな社会問題や、近年増えてきている災害にも立ち向かっていけると実感しました。私たちは、本企画終了後も用意した防災地図や旗などのツールを用い、防災訓練を行います。その過程で、今回パイロットとした125世帯に限らず、全世帯に災害時に住民同士で助け合う事のできる仕組みが波及していく事を期待しています。住民、自治会、私たち学生で一つの大きなチームとなり、安心して住み続ける事のできる団地づくりをしていきます。

● 会計報告

活動資金 180,000円		支出総額 176,271円	
内訳			
項目		小計	
印刷製本費	A4用紙(普通紙)1000枚(ガイドライン作成用)	589円	
印刷製本費	A4用紙(耐水紙)200枚(ガイドライン作成用)	4,730円	
用品費	プリンター(ガイドライン・団地地図印刷用)	84,470円	
消耗品費	インク(ガイドライン・団地地図印刷用)	33,898円	
用品費	布125世帯分(安否確認のための旗)	20,900円	
雑費	布の送料(安否確認のための旗)	1,290円	
用品費	ペン、ノート(井戸端ノート用)	220円	
用品費	スタンプ(井戸端ノート用)	376円	
用品費	ネームプレート(活動周知の為)	1,650円	
用品費	腕章(活動周知の為)	25,300円	
旅費交通費	バス交通費(高尾駅南口-館中学校間)2人x4往復(スマホ相談会)	2,848円	
合計		176,271円	

▶ ホームページ掲載

- 実施企画書 <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/2021/kikakusho.html>
- 学チャレレポート <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/2021/rep01.html>

八王子城跡の魅力を高める デザインプロジェクト

団体名 CDS (Community Design Supporters)

代表者 工学部 デザイン学科 4年 石井 里緒菜

参加メンバー人数 11名

実施スケジュール

- 2月以降 定期ミーティング(毎週水曜15時～、工学部棟3-35実験室)、緊急事態宣言中は遠隔でのミーティングを実施
- 6月中旬 市文化財課および三ッ鱗会への進捗報告(遠隔ミーティング)
- 10月中旬 コロナウイルスの影響により、紅陵祭の成果発表は成果を記録した動画を公開
- 11月中旬 YouTubeコンテンツの公開



ARうじてるくん体験の様子



動画イメージ



三ッ鱗会との対面ミーティングの様子

● 実施内容・成果

私たちCDSは、前年度に取り組んだ市文化財課との協働プロジェクトを踏まえ、八王子市教育委員会生涯学習スポーツ部文化財課、およびNPO法人八王子城跡三ッ鱗会と公民学の三者連携プロジェクトに取り組んだ。プロジェクトを構成する具体的な提案は、(1)御城印、(2)子ども向け甲冑キット、(3)若年層向け動画コンテンツ、(4)ARアプリである。11名のメンバーはまず、全員で(1)を、その後、3つのグループに分かれて(2)～(4)のデザインに取り組んだ。

(1) 御城印について

御城印のデザインをするにあたり、まず、その手本になった御朱印と、他の御城印について調査分析した。その結果、御朱印は神社や寺院の名称が筆書きされ、社印が押されているシンプルなものが多かった。一方、御城印は御朱印とは異なり、自由度が高く、御朱印を模したシンプルなものから、イラストが描かれたものまで多岐に渡っていた。デザインの案出にあたっては、三ッ鱗会の案内で八王子城跡を歩いた上で、1人1案を提案した。関係者とのミーティングをへて、2種類が準公式の御城印として認定されることとなった。

一つは子ども向けで、八王子城跡の Mascotキャラクターである「うじてるくん」をモチーフとした、キャッチーかつインパクトの

あるものである。もう一つは一般向けで、城主・北条氏照の印章に使われていたという「龍」をモチーフにした戦国時代の「甲冑師鏝」と、北条氏照が八王子城を築城したときに植えた「サイカチの枝」、小田原北条の家紋である三鱗(みつろうこ)、「八王子城」筆文字を組み合わせたものである。黒の筆文字の他、ユニバーサルデザインに配慮した朱色を用いている。これらの御城印デザイン案は、連携先から高い評価を得て、三ッ鱗会ではポストカード化が検討されている。

(2) 子ども向け甲冑キットについて

印刷した合成紙を貼り付けたボールチップ紙をレーザーカットしたパーツで構成されるキットで、パーツ上の穴に平紐とおして組み上げることで甲冑となる。将来の八王子城跡の保全や歴史的活動への参加を促



甲冑制作をしている様子



動画に使用する写真の撮影風景

す一助として、城跡を訪れる子どもたちを楽しませることを目的としている。来年度以降、三ッ鱗会が開催する「子ども甲冑教室」での使用する甲冑キットのプロトタイプになる。試作を重ね、完成に近づいている。

(3) 若年層向け動画コンテンツについて

八王子城跡に対する若者の興味関心を高めるためのYouTube動画である。第1話「北条氏照」、第2話「甲冑」、第3話「甲冑体験」の3話構成で、案内役をオリジナルのライブ2Dキャラクターと、そのキャラクターに扮したCDSメンバーが務める。単に歴史を解説するのではなく、キャラクターによるストーリー仕立てにすることで、楽しみながら歴史について学ぶことができる。現在、キャラクターのデータとシナリオが完成し、声優および配役も決定、城跡での写真撮影を終え、公開された。

(4) ARアプリについて

新型コロナ禍においても三密を避けて楽しめるコンテンツとして、顔認証およびマーカ認証によるARアプリ3つを開発した。顔認証によるARアプリは、タブレットPCのカメラに写った人の顔が、公式 Mascotキャラクター「うじてるくん」の顔イラストに差し替わるものである。マーカ認証によるARアプリは、カメラが捉えた特定マーカによって、3Dデータ化した「うじてるくん」などが表示されるものである。これらのアプリは市文化財課から高い評価を得て、11月中旬に「桑都日本遺産センター八王子博物館」で公開された。

● 活動を終えて

私たちCDSは、前年度の前年度の活動を引き続き、市文化財課および八王子城跡三ッ鱗会との公民学連携プロジェクトに取り組んできた。下記で述べるとおり、進行については当初の計画に照らして満足できる状態とは言えないが、三ッ鱗会の方々は楽しく交流させて頂き、文化財課の方々にはデザイン案の利活用に期待を寄せて頂き、課題や卒業研究の合間にコツコツ取り組んだ甲冑があった。上記の三者連携は次年度も継続の予定のため、現3年生を中心に準備を進めていきたい。

また、コロナウイルスの影響によりイベントの中止や延期、活動作業の遅れから当初予定していた活動が出来なかった。

改善点

今年度は新型コロナ禍の活動を想定していたとはいえ、残念ながら、主たる活動期間となるはずの夏季休暇期間が非常事態宣言下となった。特に学内でのデザイン作業が遅延した他、成果発表の場と位置付けていた秋口の地域イベントも延期または中止となり、企画書の計画どおりには進行できなかった。学生チャレンジ企画の正規の活動期間中に完成したデザイン提案は計画の半分ほどであり、残りは引き続き制作を続けている。また、活動期間中、遠隔会議ツールを用いて上記の連携先とミーティングを重ね、期待と励ましの言葉を頂いたことは、取り組みのモチベーションを保つために役

立った。その一方、遠隔ツールがあるという安心感からか、メンバー間のコミュニケーションが少々おろそかになり、後々、情報の認識にズレが生じてしまうことがあった。以上の2点が反省点であり、今後の活動で改善すべき点であると考えている。

今後の課題

上記のとおり、活動期間中の成果発表の場を失った私たちが、連携先の文化財課の協力を得て、11月中旬に「桑都日本遺産センター八王子博物館」で開発したARアプリを公開し、来館者を楽しんで頂く予定である。また、3月に延期となった地域イベント「元八マルシェ」においても、三ッ鱗会が印刷配布予定の御城印ポストカードを含め、地域の方々に楽しんで頂く予定である。以上の活動が今年度に残された課題であり、責任をもって取り組んでいきたいと考えている。

最後に

今回の活動については、正規の期間内に想定したゴールに辿り着けたとは言えないが、連携先の前向きな協力を得て、今後につながるデザイン提案を具現化できたと考えている。また、メンバー個々の経験がそれぞれの授業課題や卒業研究にもフィードバックされ、総合的なデザインの学びにもつながった。連携先の関係者とのコミュニケーションもかけがえのない経験である。最後に、市文化財課および三ッ鱗会の皆さまに御礼申し上げます。

● 会計報告

活動資金 160,000円		支出総額 47,067円
内訳		
項目	小計	
消耗品費	甲冑キット制作用ボール紙(チップボール26号・厚1.92mm・A2) 50枚×1	15,853円
消耗品費	甲冑キット制作用平紐(7mm・2m)×1	177円
消耗品費	甲冑キット制作用平紐(7mm・3m)×1	209円
用品費	ARアプリ展示用三脚 6,600円×3	19,800円
用品費	ARアプリ展示用タブレットホルダー 2390円×3	7,170円
用品費	動画配信用ウィッグ(ライトブラウン)	2,259円
用品費	動画配信用ブリーツスカート(グレー)	1,599円
合計		47,067円

▶ ホームページ掲載

○実施企画書 <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/2021/kikakusho.html>

○学チャレレポート <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/2021/repo2.html>



成果報告発表会

採択団体による成果報告発表会を開催。 各賞が決定。

12月4日(土)、文京キャンパスにて今年度の活動の集大成として活動の成果を報告しました。
各団体の発表後に、実行委員会を開催。最終結果が決定しました。



FWR
(Food Waste
Reduction)



SANJO
BEATERS x
TAKUDAI



留学生就活支援
プロジェクト
チーム



大津島
プロジェクト
「かんじいろ」



チーム
館プロ



CDS
(Community
Design
Supporters)



チャレンジ
大賞

FWR (Food Waste Reduction) 地域の食品ロスを減らそう!

代表挨拶 商学部 国際ビジネス学科 3年 鈴木 翔太

コロナ禍の中、度重なる企画の変更がありました。いろいろな方に支えていただき活動を続けることができました。ご協力いただいた地域の方々に感謝申し上げます。

受賞の感想(メンバーの声)

- 本日にシンプルにうれしいです。どうせやるなら1番いい賞を!と思って活動してきました。
- 当初予定していた企画が難しくなり、そこからどのように打開するかを考えてきました。どのグループよりも最後の伸びはすごかったのかなと思っています。
- チームのメンバーが少ないなか、地域の方々と連携して活動できたことが財産になりました。

みなさんにとって学チャレとは?

- 成功も失敗も全部無駄にならないチャレンジ
- 自分で考えて、壁にぶつかっても、自分で工夫して乗り越えていく活動。自分の成長につながります。



チャレンジ賞

CDS (Community Design Supporters) 八王子城跡の魅力を高めるデザインプロジェクト

受賞の感想(メンバーの声)

- 難しい技術にチャレンジすることができ、個人個人が成長することができました。頑張りか認められて賞をいただけるとてもよかったです。
- コロナ禍でイベントが中止や延期になり、成果を発表する場が無くなりかけていましたが、最終的に八王子博物館で展示ができたのでよかったです。
- 皆で力を合わせて頑張ってきたのでうれしいです。
- このプロジェクトと携わることができ、チームのメンバーに感謝したいです。
- 活動を通じて地域のみなさんと触れ合えたことが財産です。
- 博物館での展示で、ユーザーの方々の生の声をお聞きすることができたので、とても参考になりました。
- 活動を通じて、意見交換の重要性を学びました。
- 私たちの活動が地域のさまざまな問題に目を向けるきっかけとなってくれたらうれしいです。

みなさんにとって学チャレとは?

- 社会と関わっていくので、自分の活動が社会の役に立っていることを実感できる場です。
- チームでの一体感を味わえる場所。 ● 自身の可能性を引き出すもの
- 新しいことを始めるための一歩を前に出してくれる素敵な企画と思っています。
- 学生一人一人がSDGsに向けての取り組みを表現できる企画
- 学生ならやってみるべき企画 ● 学生がどんどん成長していく場所

採択団体メンバー 一覧

FWR(Food Waste Reduction)			
商学部 国際ビジネス学科	3年 鈴木 翔太	商学部 経営学科	4年 道原 匠
商学部 経営学科	4年 石原 尚徳	商学部 経営学科	4年 岡本 龍太郎
商学部 経営学科	4年 田中 裕大		

SANJO BEATERS x TAKUDAI			
商学部 国際ビジネス学科	3年 多田 涼太郎	商学部 会計学科	4年 夏生 莉可
商学部 経営学科	4年 今井 麻結		

留学生就活支援プロジェクトチーム			
商学部 国際ビジネス学科	3年 宮崎 智恵	商学部 経営学科	3年 吉岡 遼
商学部 国際ビジネス学科	4年 熊谷 美徳	商学部 国際ビジネス学科	3年 小笠原 颯世
商学部 国際ビジネス学科	3年 守谷 圭佑	商学部 国際ビジネス学科	3年 益子 宗太
商学部 経営学科	3年 肝付 兼哉	商学部 経営学科	4年 中山 雄二
商学部 経営学科	3年 島村 寛悦	商学部 国際ビジネス学科	4年 Rahman Md Ashiqur
商学部 経営学科	3年 村上 隼	商学部 国際ビジネス学科	4年 松永 貴久

大津島プロジェクト「かんじいろ」			
政経学部 経済学科	3年 関 海人	政経学部 法律政治学科	3年 清水 麻帆
政経学部 経済学科	3年 吉岡 興紀	政経学部 法律政治学科	3年 中田 湧大
政経学部 法律政治学科	3年 長倉 あすか	政経学部 法律政治学科	3年 深澤 花
政経学部 経済学科	4年 小坂 佑太	政経学部 法律政治学科	3年 眞神 奈枝
政経学部 法律政治学科	4年 菊池 桃太	政経学部 経済学科	3年 青木 隆之介
政経学部 経済学科	3年 岸谷 拓海	政経学部 経済学科	3年 猪股 和馬
政経学部 経済学科	4年 庭山 天秀	政経学部 法律政治学科	3年 櫻井 花音
政経学部 経済学科	3年 岩佐 真弥	政経学部 経済学科	3年 菊川 淳仏
政経学部 経済学科	3年 渡来 正浩	政経学部 経済学科	3年 仲山 拓海

チーム館プロ			
国際学部 国際学科	3年 岡部 優里奈	国際学部 国際学科	3年 大野 玲奈
国際学部 国際学科	2年 畠中 優汰	国際学部 国際学科	3年 佐藤 冴子
国際学部 国際学科	3年 宗形 颯人	国際学部 国際学科	3年 ALSV Perera
国際学部 国際学科	2年 渡邊 夢豊	国際学部 国際学科	3年 SADM Suraweera
国際学部 国際学科	3年 祝真 優	国際学部 国際学科	3年 Tariyal Ayush
国際学部 国際学科	2年 松村 杏美	国際学部 国際学科	2年 高橋 舞弥
国際学部 国際学科	4年 佐藤 優香	国際学部 国際学科	2年 廣瀬 杏奈
国際学部 国際学科	4年 高橋 亜沙美	国際学部 国際学科	2年 平野 美碧

CDS(Community Design Supporters)			
工学部 デザイン学科	4年 石井 里緒菜	工学部 デザイン学科	4年 浅倉 菜々子
工学部 デザイン学科	4年 西森 咲	工学部 デザイン学科	3年 村岡 奎亮
工学部 デザイン学科	4年 寺木 爽真	工学部 デザイン学科	3年 海老澤 勇太
工学部 デザイン学科	4年 櫻田 俊	工学部 デザイン学科	3年 上原 成美
工学部 デザイン学科	4年 木田 龍太	工学部 デザイン学科	3年 相原 亮
工学部 デザイン学科	4年 山田 翔太		



奨励賞

チーム館プロ 地域の絆で災害を乗り越える

受賞の感想(メンバーの声)

- たくさんのメンバーの想いが詰まった活動でしたので賞をいただけると嬉しいです。
- 地域の長期的なプロジェクトに参加することができ光栄です。

みなさんにとって学チャレとは?

- 新しいことにチャレンジできる貴重な企画
- 違う世代の方々と真剣な取り組みができる場所

講評

拓殖大学副学長
学生チャレンジ企画
実行委員長
潜道 文子

各団体のプロジェクトの内容が非常にレベルが高く、成果報告のプレゼンテーションも素晴らしい内容だったと思います。成果をしっかりと数値化した団体も多くあり、皆さんの約半年間の真摯な取り組みが伝わってきました。地域の活性化や社会的課題の解決に向かって活動をしていただいていますので、今後の

持続性、継続性やさらなる提案に地域の方々や大学も期待しています。これからも大学は学生一人一人の能力開発や成長を応援していきたいと考えています。学生チャレンジ企画の活動で得た知識や経験を大いに発揮して、これからも頑張ってください。本当におつかれさまでした。

過年度応募状況・ 2021年度(第12回)募集要項



過年度応募状況

回数	年度	応募件数	1次審査 (書類選考) 通過	2次審査 (プレゼン選考) 通過 採択企画	優秀企画		
					最優秀 (チャレンジ大賞)	優秀賞 (チャレンジ賞)	奨励賞
第1回	2010年/平成22年	21	10	6			
第2回	2011年/平成23年	20	8	8			
第3回	2012年/平成24年	21	9	6			
第4回	2013年/平成25年	15	8	6			
第5回	2014年/平成26年	19	9	6			
第6回	2015年/平成27年	14	8	6			
第7回	2016年/平成28年	23	8	5	1	1	
第8回	2017年/平成29年	23	10	5	1	1	
第9回	2018年/平成30年	34	8	5	1	2	2
第10回	2019年/令和元年 グループ部門	38	15	9	1	3	2
	2019年/令和元年 個人部門	2	1	1			
	2019年/令和元年 アイデア部門	52	20	20			
第11回	2020年/令和2年	新型コロナウイルス感染症の影響により中止					
第12回	2021年/令和3年	26	9	6	1	1	1

2021年度(第12回)募集要項

趣 旨 社会や地域への貢献、国際交流、ボランティア、大学の活性化などにつながる活動を積極的に行う学生をサポートするものです。

目 的 問題解決力、コミュニケーション力、交渉力、予算管理能力の向上を目的とし、SDGsの17のゴールに向かって企画を実行する。

応募資格 本学に在籍する学生(学部生・大学院生・別科生)
※個人(1名)でも応募可能です。

テ ー マ 下記4つのテーマから1つを選択してください。
① 社会・地域貢献・ボランティア活動
② 国際交流への取り組み
③ 大学活性化のための活動
④ その他
なお、テーマを選択後、併せて「SDGsの達成すべき17の目標」を選択してください。

本企画の趣旨に添うことを前提とした活動であることを条件としますが、学業に支障をきたすものや危険を伴うものは避けてください。

活動条件

- ① 活動期間中、中間報告のための取材(対面またはオンライン)を受ける。
- ② 紅陵祭で展示とワークショップにより活動成果を発表する(予定)。
- ③ 活動の成果と反省・活動資金の収支をまとめた実施報告書を提出する。
- ④ 成果報告発表会で最終発表を行う(会場またはオンラインで開催)。
- ⑤ 活動は三密を避け、オンラインを有効活用する。

採択件数 5件程度を予定

活動資金 企画書の内容に応じた所要経費の一部を、30万円を上限に活動資金として支給します。なお、活動資金は実施報告書にて会計報告し、精算を行います。計画が実行出来なかった場合には、活動資金の返金を求める場合があります。

応募期間 2021年4月26日(月)～5月26日(水) 13:00

募集方法 Takudai Portal、デジタルサイネージ、ホームページ、学内ポスターで告知

応募方法 所定の提出書類フォーム(Excel形式)をホームページからダウンロードし作成した後、提出前にセルフチェックを行った上で提出してください。なお、今年度はメールでの提出となります。

選考方法 ◎第1次選考(実行委員による書類審査)
結果は、6月11日(金)に電話でお知らせします。

◎第2次選考(プレゼンテーション審査)
6月19日(土)にオンラインで開催します。プレゼンテーション審査は事前に収録した5分以内の動画で行います。当日は動画放映後10分間の質疑応答を行います。

企画の実行 「活動条件」に基づき、スケジュールを立て計画的に実行します。※成果報告発表会:12月4日(土)、文京キャンパスまたはオンラインにて実施します。発表会終了後、実施報告書・取組状況・プレゼン発表を総合的に審査しチャレンジ大賞、チャレンジ賞、奨励賞を選考し、表彰します。

スケジュール

5月26日(水) — 応募締切 13:00
6月11日(金) — 第1次選考結果を電話で連絡
6月18日(金) — プレゼンテーション用動画提出締切 13:00
6月19日(土) — 第2次選考(プレゼンテーション審査)
※オンライン開催10:00～14:00
6月21日(月) — 選考結果(採択企画)を学生ポータルで発表
6月下旬 — 活動研修会
6月～9月 — 中間レポート ※取材を受けホームページに掲載する。
10月中旬 — 紅陵祭での展示発表・ワークショップ/活動完結
10月30日(土) — 活動報告書の提出締切
12月4日(土) — 成果報告発表会 優秀企画の表彰
3月中旬 — 実施報告書の発行

※コロナウイルスの感染状況により内容やスケジュールが変更となる場合があります。

主催 総合企画部・学生部

お問い合わせ 広報室(文京キャンパス:A館1階) 電話:03-3947-7160 E-mail:gakuchalle@ofc.takushoku-u.ac.jp